

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年4月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年4月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は

「復興関連需要に一服感がみられるものの、持ち直しの動きが続いている」

(据え置き)

- ・現 状…季節需要に動きがみられるものの、復興関連の需要は一部を除き一服感がみられる。また、消費者の低価格志向により価格競争が強まっているほか、企業の受注環境にも厳しさがうかがえる。
- ・先行き…消費者の低価格志向に変化はなく、増税問題や円高の影響など懸念材料があるものの、エコカーの駆け込み需要が見込まれるほか、復興計画の具体化による関連需要の増加に期待がみられる。
- ・総 合…現状はやや悪化したものの景気判断の基準となる50を上回っており、先行きには期待感がうかがえる。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード
…天候（現状、先行き）、復興需要（先行き）
- ・マイナスのキーワード
…低価格志向・買い控え（現状、先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「51.2」（▲2.4）は、2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。
- ・家計動向は、気温の上昇とともに春物が動き始め、高額品に動きがみられるものの、復興関連の需要は一部を除き一服感がみられる。また、消費者の低価格志向が強まっており、価格競争の面で厳しさがうかがえる。DIは「50.2」（▲2.1）と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。
- ・企業動向は、震災復興関連で飲食などに底堅い動きがみられるものの一服感もあり、建設工事にかかる労務単価や資機材単価の高騰は解消されていない。また、一部業種では

寒さが長引いたことで季節商材の動きが鈍かったり、受注量に横ばいしないし減少の傾向がみられるなど、厳しさがうかがえる。DIは「47.5」(▲3.8)と3か月連続ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を11か月ぶりに下回った。

- ・雇用動向は、求人は震災復興関連の建設に加え、飲食店や小売など流通関係でも増えており、上向きの動きが続いている。ただし、正規雇用は少なく、専門職の求職者が増えていない状況もうかがえる。また、円高に対応して製造業の一部では下請会社との契約を解除する動きがみられる。DIは「64.8」(▲1.9)と3か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を10か月連続で上回った。

(3) 先行き判断(3か月先の見通し、方向性)

- ・先行き判断DI「51.1」(+2.0)は、3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月ぶりに上回った。
- ・家計動向は、エコカー補助金の終了を前にした駆け込み需要が見込まれるほか、夏場に向けた季節需要に期待があるものの、消費者の低価格志向は変わらず、増税問題など先行き懸念材料もある。また、前年の復興特需からの反動はプラスマイナス両面の動きが想定されている。DIは「49.5」(+2.6)と3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を24か月連続で下回った。
- ・企業動向は、販売価格の引き下げによる競争激化や円高の影響など、企業の経営環境には厳しさがうかがえる。また、農業では、冬の大雪と寒さによる果樹の生育と収穫への影響が懸念されている。一方、復興計画の具体化による予算執行及び関連需要の増加に期待がみられる。DIは「55.6」(+4.3)と2か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を5か月連続で上回った。
- ・雇用動向は、企業の中途や来春新卒者の採用意欲及び人材派遣ニーズへの高まりがみられる反面、求人の増加は震災復興関連の緊急雇用対策やパートが中心で、正規雇用の割合が低下している状況もうかがえる。また、受注量の減少や円高の影響による一部製造業での人員整理の動きが懸念されている。DIは「53.4」(▲6.1)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を12か月連続で上回った。

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター(担当:木村)
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10
TEL: 022-222-3394 FAX: 022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、復興関連需要に一服感がみられるものの、持ち直しの動きが続いているとのことである。

2. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「51.2」（▲2.4）と2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。

	23年												24年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
東北現状	16.8	23.5	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4	49.8	49.6	47.3	47.2	53.6	51.2		
家計動向関連	15.3	25.2	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9	48.4	46.7	43.9	43.0	52.3	50.2		
企業動向関連	18.2	23.1	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0	50.6	51.3	50.0	51.2	51.3	47.5		
雇用関連(参考)	23.8	13.6	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7	57.1	65.5	64.3	66.7	66.7	64.8		

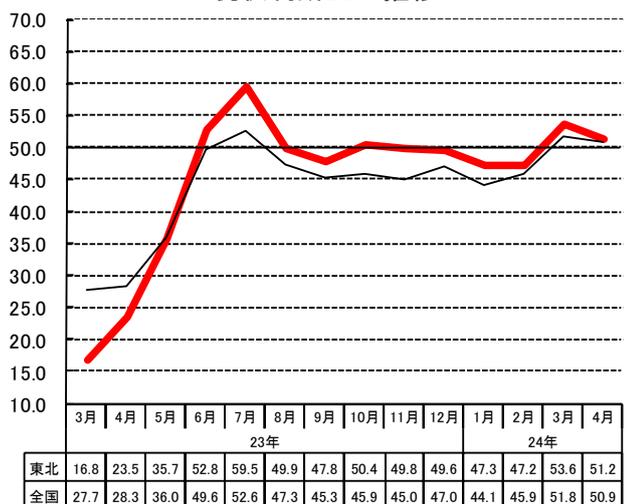
(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「51.1」（+2.0）と3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を2か月ぶりに上回った。

	23年												24年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
東北先行き	21.1	36.7	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4	46.6	47.2	50.9	50.4	49.1	51.1		
家計動向関連	20.7	36.1	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6	45.7	44.3	48.4	48.2	46.9	49.5		
企業動向関連	19.6	39.1	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6	46.3	51.3	54.3	54.9	51.3	55.6		
雇用関連(参考)	26.2	36.4	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8	53.6	58.3	60.7	56.0	59.5	53.4		

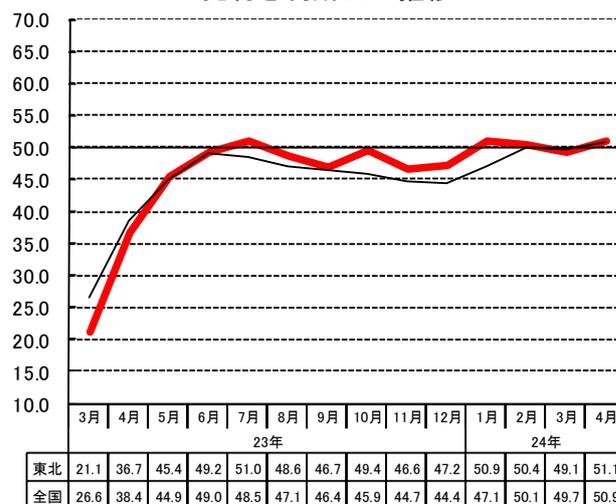
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

3. 調査の概要

調査期間 平成24年4月25日～30日

回答者数 205/210名、回答率97.6%（全国1,817/2,060名、88.6%）

4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（設計事務所）…増えてきている物件数がこのまま増え続けていくのかどうかは全く読めないが、今は誰に話を聞いても忙しいといっている。

（人材派遣会社）…車を購入したり、不動産を購入したりする人も目立っており、地元百貨店などでも軒並み売上がアップしている。市内のアパレルテナントも総じて売上が上がっており、店舗賃料の管理や販売指導を兼ねたテナント営業人材の需要が出るなど、盛り上がりをみせている。

○「やや良くなっている」

（商店街）…大型店では高額・宝飾品の動きも出てきており、景況良との声を聞くが、商店街全体としてはやっと2年前の状況に戻ってきたかという程度である。ただ、客の購買状況は購入単価、数量共に徐々にではあるが良くなっているようである。

（百貨店）…前年の自粛の反動か、食品以外の客数が上昇し、必需品ではなくデザインを重視したファッション感度の良い商品が動いている。緩やかではあるが支出への余裕が幅広い層に浸透してきている状況がうかがえる。

（酒類専門店）…雪解けと比例するように消費者に余裕が出てきている。価格は安く、品質は良いものを求める消費者の傾向は更に強まっているが、購買意欲も高まっている。また、飲食店も予約での宴会が増加傾向にある。ただし、集客の良い店と悪い店の差が激しくなっている。

（都市型ホテル）…震災復興に関する宿泊、レストラン、企業団体による利用はいずれも好調を維持している。来月まで先行予約が順調に入っている。

（住宅販売会社）…不動産、戸建て住宅、RC造賃貸マンション等、購入に向けて前向きな顧客が非常に多くなり、確実に受注につながってきている。

（建設業）…客の自然災害への意識が高まり、建物改修工事が増加している。

（広告業協会）…住宅、自動車販売、百貨店スーパー、DIY店等が広告出稿を増やしてきている。復興特需がここにきて広告業界にも及んできている。

（人材派遣会社）…従来の建設業、飲食業の求人に加えて、物流やスーパー、小売の各企業の求人が増えている。

（新聞社〔求人広告〕）…求人数は前年比6割増で、ほぼ2年前の水準に戻っている。

○「変わらない」

（百貨店）…震災の影響で本格的な営業ができなかった前年との比較は難しいが、前年に震災特需で売上を伸ばした生鮮食品やリビング用品の一部で前年の数字を割る日も出てきているものの、概ね好調である。なお、2年前との比較では3か月前と比べ数字は落ちておらず、好調を維持している。

（スーパー）…1品単価はほぼ前年並みだが、来客数の伸びは鈍化している。買上点数も賞味期限がある程度長い即食系の菓子や缶詰等が低迷している。全体としては落ち着いてきている。

（コンビニ）…主婦や高齢者の消費は堅調である。米飯、パスタ等の麺類は前年より伸長している。気温の上昇に伴い、ソフトドリンクや冷やし麺も好調である。来客数は3か月前と比べて横ばい状態だが、客単価は若干アップしている。

（衣料品専門店）…例年よりも気温が低かったため、約2週間ずれ込んだ春物は順調に売れているものの、半袖商品の立ち上がりが遅れている。

（ガソリンスタンド）…ここ数週間の仕入れ価格の高騰により販売価格が高止まりしている影響から、消費量の減退が続いている。価格上昇が理由のため、一時的な動きではないので影響が大きい。また、販売量の減少が逆に販売価格を押し下げて販売を伸ばそうという動きも出ており、収益悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

(観光型旅館) …いわゆる絆需要も落ち着き、東北への観光旅行は全体的にかなり減っている。前年の同時期は、工事や復興関係者などの入込で売上は多かったが、地元の客も沿岸部はもちろん、県内全体の経済的状況は悪く、今年は観光旅行が激減している。

(美容室) …単価は全然上がっていない。来客数及び売上は震災のあった前年に比べれば増えているが、2年前との比較では減少している。

(繊維工業) …春の暖かさが例年よりやや遅くなっており、季節商材の動きがやや鈍っているようである。

(建設業) …復興関連工事の発注が継続している一方、労務単価や資機材単価の高騰も解消しておらず、状況は横ばいである。

(飲食料品卸売業) …復興関連事業者などによる都市部ホテルや飲食店の利用により、依然として好調な出荷が続いている。

(企画業) …潜在的な需要はあるが、震災関連では建設地確保が難航しているため、住宅会社の受注は一段落している。

(人材派遣会社) …年度末からさまざまな職種の引き合いと注文が増加しているなかで、専門職に応募する求職者が増えないこともあり、全体の登録者は伸び悩んでおり、失注するケースが続出している。

(新聞社 [求人広告]) …将来の業績回復が予測できないためか、ほとんどの業種で正規雇用を極力抑えているようである。求人があっても、パートやアルバイトの形態が多い。

(職業安定所) …求人数は変わらないものの、製造業の一部で円高に対応するための組織再編が行われ、下請会社との契約解除が行われている。

○「やや悪くなっている」

(スーパー) …震災復興特需も終わり、競合店におけるチラシ等の価格訴求が強化され、来客数、買上点数、1品単価共に減少傾向が続いており、非常に厳しい状況になっている。

(衣料品専門店) …震災から1年経過し、前年に比べ礼服を買い求める客が激減している。スーツの動きは比較的堅調だが、礼服については前年の特需による反動がみられる。

(乗用車販売店) …エコカー補助金が続いている反面、エコカー減税の対象車種が大幅に減った影響から、販売量が大幅落ち込んでいる。

(酒類専門店) …後半は落ち着いているが、地元飲食店の来客数は明らかに悪く、2年前と比べても深刻な状態である。ある程度の予想はしていたが、地元だけでは商売にならず、事務所の移転や撤退、店を閉じるどころが目につくようになっている。

(テーマパーク) …復興支援を目的とした客は購買意欲が高いが、高速道路無料措置の終了により、来客数が減少している。特に、高速道路完全無料の東北地域からの客が大幅に減少している。

(電気機械器具製造業) …会社の経営状態が悪化し厳しい状況が続いている。最大の要因は円高、タイの洪水によるPC関連の需要縮小である。

(広告代理店) …特需的な案件が3月末を機に激減している。売上は前年とは比較できないが、2年前との比較では2割ほど低くなっている。

○「悪くなっている」

(家電量販店) …現状、家電業界には目新しい注目商品がなく、来客数の減少を日々感じている。

(自動車備品販売店) …エコカー補助金制度の影響により、市場から過度に中古車及び車検継続車が無くなっており、車検整備台数及び補修に入る車が激減している。繁忙期のはずではあるが、エコカー減税対象車の購入時から3年を経過していない車検市場は悪い。前年の数字を更に下回っている。

(2) 先行き判断理由

○「良くなる」

(旅行代理店) …家庭に支払われている電力会社の賠償金により個人消費が増加し、少なくとも9月ご

るまでは好影響が続くと想定している。

○「やや良くなる」

(百貨店) …売行きは必需品からデザイン性を重視した商品に変わりつつある。また、旅行の計画に伴って衣服や靴、鞆などを購入するなど、心理面に余裕が出てきている。幅広い層において、お金を使い始めている状況がうかがえる。

(スーパー) …震災から1年が経過し、自粛ムードも薄れ、行事や催事への購買行動も戻りつつあるようである。

(ショッピングセンター) …前年の3～5月は復興需要により販売量が拡大していたため、今月の売上高は前年を下回っている。しかしながら、前年の6月ごろには復興需要も終了し通常に戻ったため、6月以降は売上高の前年比においては高い推移が見込まれる。

(リフォーム業) …震災から1年が経過し、業界の動きが見えてきている。

(広告業協会) …金融、損保等から広告出稿の引き合いがきていることから、業界は好調に推移するものと予測している。

(飲食料品卸売業) …都市部のホテルでは、団体の全国大会や国際会議などが多数予定されており、飲食需要にも結びつくと思われる。また、沿岸被災地でも視察や観光の需要に動きがあり、現地の観光ホテルなどからの受注に期待が持てる。

(金属工業協同組合) …若干ではあるが、既存及び新規の客先から受注打診の動きが現れてきており、期待できる。

(人材派遣会社) …労働者派遣法の規制強化を受けながらも、人材派遣のニーズは例年並みに回復しつつある。また、人材紹介や紹介予定派遣など、直接雇用へ料金を払ってまで採用を急ぐ企業が多くなってきている。

(人材派遣会社) …季節要因もあると思うが、中途採用に加えて、来春卒業の大学生、新卒採用について小売や物流、食品メーカーからの問い合わせが多くなってきている。

(職業安定所) …新規求人は増加しており、新規求職者数は減少している。有効求人倍率は0.81倍と前年と同じだが、企業側の採用意欲が上向いていることをうかがわせる。

○「変わらない」

(寝具販売店) …震災から1年が経過し、生活に必要な物がある程度そろったなかで、先行き模索中のため、商品を追加購入する動きはまだ期待できない。

(スーパー) …自動車産業が好調なため、当地区においても一部地域では好景気を見込んでいるが、それ以外の地域では相変わらず食料品の消費は低迷すると予想される。また、食品への放射能汚染の影響が懸念される。

(コンビニ) …高速道路無料措置の終了によって、一般幹線道路沿いの店舗では売上は上昇したが、継続して上昇していく要因にはならない。復興需要頼みの印象があり、新たな産業が興っているわけではないので夏までそれほど大きな変動はないとみている。

(衣料品専門店) …節電対応から、クールビズ関連は前年並みもしくはそれ以上の需要が期待できるが、礼服の需要は前年からの縮小が見込まれ、全体としては変わらないとみている。

(乗用車販売店) …エコカー補助金の終了時期はこの夏場と予想される。それまでは駆け込み需要から、現在の良好な状況が続くとみている。また、ガソリン価格の高値安定により、低価格のエコカーの需要が増加傾向で推移する。

(都市型ホテル) …前年は震災があったため、数字は前年比では倍増しているが、当地では大手電子部品メーカーの関連工場撤退の影響で、千人規模の人が職を失っているため、その状態が続けば、景気は停滞する。明るい材料として、プレデスティネーションキャンペーンがあるが、観光地が潤うほどの観光客の勢いがあるかどうかは様子見の状況である。

- (遊園地) …電気、ガス、ガソリンの動向が懸念されるが、一般客については底堅い推移が見込まれる。ただし、学校や団体がどれくらい戻ってくるかは不透明である。
- (農林水産業) …ももの花が例年よりも1週間程度遅れている。そのため、収穫も1週間程度は遅くなり、最需要期であるお盆に間に合わないのではないかと今から心配している。
- (出版・印刷・同関連産業) …全体的には仕事量は増加しているものの、役所からの仕事が減っていることに加え、価格競争は相変わらず激しいため、プラスマイナスゼロになるとみている。
- (建設業) …期待に反し、震災関連工事の発注は進んでない。がれきが片付かなければ先に進まないようである。
- (広告代理店) …地元の市及び県の入札には東北全県から業者が集まっており、価格の叩き合いになっている。急激な好転はないので、根気強く底上げをしていくしかない。
- (職業安定所) …求人の増加は、緊急雇用対策の求人やパート求人が多く、正社員求人の割合は低下している。求職者の滞留も続いていることから、更に良くなるとは考えにくい。

○「やや悪くなる」

- (コンビニ) …春から夏へ客足が伸びる時期となり、季節指数での販売増加が見込めるものの、競合他社チェーンの新規出店が本格化していくので、既存店の売上前年比には好材料が無い。
- (衣料品専門店) …年々企業で、クールビズが浸透しており、サマースーツの売行きが悪化している。ビジネスシャツとスラックスではカバーしきれない。
- (乗用車販売店) …新卒者需要も一段落し、エコカー減税も新基準に移行したことから、更に需要が減る可能性がある。
- (自動車備品販売店) …これからエコカー減税導入時の車検が始まる時期を迎えるが、初回の車検では交換部品もほとんどなく、メーカー系ディーラーの囲い込みが購入時においてすごいために民間市場に流れる割合は少ないと予測している。
- (観光型旅館) …集客が順調であり、売上の見込みも良くはなったのだが、商品単価の下落やサービス残業の増加など、販売条件や労働条件が更に悪くなっていく傾向にある。企業も労働者も過酷な条件となりそうだ。
- (旅行代理店) …現在のやや良い状況が続くことは考えられない。いつ個人旅行の需要が落ちてくるかは不透明であるが、団体旅行が動いていないため、個人旅行が例年並みになった段階で、若干悪くなるのではないかとみている。
- (一般機械器具製造業) …自動車部品については、販売価格の引き下げと競合各社との価格競争激化により、厳しくなることが予想される。
- (新聞社[求人広告]) …県内企業の採用が少ないため、求職者が首都圏に出ざるを得ない状況は続く。
- (職業安定所) …受注量減少や円高による収益悪化により、電子部品製造業で人員整理の話が出ている。

○「悪くなる」

- (スーパー) …消費は冷え込んだままである。消費者は必要最小限のものを低価格で購入する姿勢を維持している。ガソリン代、水道代は高止まり、最低限のライフラインへの消費で青息吐息である。ボーナスも期待できない状況である。飲食店の利用も低迷している。
- (人材派遣会社) …季節要因等も考えられるが、当県の震災特需はやや落ち着き、求人広告申込数も減り始めている。また、隣県では特に製造派遣、業務請負の求人広告申込数は3か月前と比べると約半分になっている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上